

2026年3月15日(日) 第1礼拝「苦い水が甘い水に」出エジプト 15章 22～27節

イスラエルの民は出エジプト後、紅海を渡り、奇蹟的な救いを体験しました。四百年間、彼らを苦しめたエジプトの軍隊が水に押し流された時、喜び歌いながら、三日間歩きました。しかし、到着した所で苦い水を飲んだ時、不平不満が爆発しました。救われてたった三日で怒りが爆発したのです。それは、彼らの中に奴隷生活の苦い記憶が残っていたからです。

第一番目、苦い水です。苦い水は孤児の霊です。孤児の霊を持つ人は、両親の有無に関わらず、自分は独りで、守ってくれる人がいない、自分で責任を取らなければならないと思い、いつも不安な状態です。いつも人の顔色を伺い、小さな批判にも深く傷を受けてしまいます。その人から苦い水が出て、他の人に悪影響をもたらし、鋭い言葉で人を傷つけ、人を倒さないと生きることができないという強い攻撃性があります。また、自分に対しても愛される資格がないと思い、自分を罪に定め、傷つけ、孤独の中に生きます。孤児の霊を持つ人の特徴は、完璧主義の性質を持ち、承認欲求が強く、自分には価値がないという低い自尊心を持ち、自分の思い通りにいかないと、抑えられない怒りを持ちます。これが苦い水です。

第二番目、一本の木です。民の不満が爆発した時、モーセが主に叫ぶと、主は一本の木を示されました。その一本の木を水に入れると、水は甘くなりました。一本の木とはイエス・キリストの十字架です。孤児の霊、苦い水のある所にイエス様の十字架が入るなら、その水は甘くなるのです。それは、イエス様が私たちの苦い水を背負ってくださるからです。孤児の思いはイエス様によって解決され、代わりに子とされる霊を受け、神様を「アバ父よ」と呼ぶことのできるのです。イエス様は私たちの罪責感や苦しみのために刺し通され、神様に捨てられました。そのイエス様の打たれた打ち傷によって、私たちは癒されました。私たちの内にイエス様を受け入れるなら、私たちの過去の苦い記憶や経験はすべて癒されるのです。

第三番目、癒しの神様です。苦い水が甘い水になった時、神様はイスラエルの民におきてと定めを授けられました。孤児の霊がいると、いくら御言葉を勉強してもかえって悪くなります。しかし、苦い心が癒され、自分も他人も愛する心になる時、十戒や福音を喜んで受け入れることができます。おきてと定めを受けた後、民はエリムに着きました。エリムには、十二の水の泉と七十本のなつめやしの木がありました。エリムは「力ある」という意味です。十二の泉は十二の部族、十二の弟子、また、七十のなつめやしは七十人の長老、七十人の弟子たちを意味する「教会」を表しています。私たちは荒野のような険しい世を旅する旅人です。私たちはエリムのようにオアシスで癒しを体験し、安息の中で力を受け、険しい荒野や砂漠を歩きつつ、約束の地であるシオンに向けて前進する者です。イエス様が十二の泉、七十本のなつめやしのある教会に私たちを呼ばれる理由は、苦しみではなく安息を与えるためです。神様が天地万物を造られた時、人間を六日目に造られ、七日目に安息されました。安息のために人間を造られたのです。私たちは安息を通して力と癒しを受け、聖霊の川(甘い水)が私たちの内から流れ、砂漠の地を旅しながら、約束の地シオン、天国に向かうのです。